風土記の丘の花だより208

今、そしてこれから見られる植物（2023年10月21日）

一気に秋めいてまいりました。先日、センブリはまだかなと思って見に行く途中、なんとソメイヨシノが咲いていました、この変な気候に草木もうろたえているのでしょうか？

資料館の下をくぐり、階段を上がって右に進むと、突き当たりにバクチノキの花が咲いています。きっと聞き慣れない名前だと思います。この木の左隣にセイヨウバクチノキが植えられていますが、この木の花はまだ見たことがありません。白くて小さなブラシのような花ですが、意外にもバラ科の植物です。面白い名前の由来は、この木が老木になると、樹皮が剥がれるので、ばくちに負けて身ぐるみ剥がされた様子に見立てたことによるそうです。みなさん、ギャンブル依存症には気をつけましょう。

お目当てのセンブリはまだ咲いていませんでしたが、ワレモコウはたくさん咲いていました。前山 A100 号墳周辺です。これも意外にもバラ科の植物です。ワレモコウは吾亦紅と書いて「他にもきれいな赤い花はあるけれど、私だって赤いのよ」という意味の名前です。でも紅色と言うより何となく赤黒く見えます。秋らしい色ではないのに、この花が咲くと秋の雰囲気が漂うのは不思議ですね。このほかに、自生のオケラも例年になく、たくさん咲いています。埴輪をたくさん並べた古墳の手前の左側です。

万葉植物園の左側、カキツバタなどが植えられている小さな湿地にミゾソバのピンク色の花が咲いています。タデ科の花ですが、他のタデの仲間と比べるととても大きな花を付けます。名前にソバと付きますが、ソバは畑に植えられますが、これは湿地を好むので「溝」という字が付いています。大池の北側に広い休耕田がありますが、そこに大きな群落があって、一面にミゾソバの花が咲いていて見事です。一度ご覧になってください。葉の形が特徴的で、牛の額（うしのひたい）に例えられます。

チヂミザサの花が開花のピークを迎えています。と言ったところで、さほどきれいな花でもなし、目を引く花ではなし、道の端や林床にいくらでも生えていますから、皆さん全く意識することなく通り過ぎているのでしょうね。おまけにズボンの裾や靴にいっぱい付くので、うっとうしい草です。葉が少し波打つように縮んでいるイネ科の草なのでこんな名前が付いています。葉に毛が多いタイプはケチヂミザサと言われることがあります。

松下